

## 第24回市民ふれあいトークー地域力を活かすまちづくりー

日時 平成23年2月16日 18:30~20:00

場所 下津井公民館

### 要約版

#### 《市長》

最初にこの下津井地区、下津井、大島、田の浦、吹上の地区について私が非常に素晴らしいと思っていること、それから市の施策等について少しお話したいと思っています。当下津井地区につきましては、非常に伝統のある地域であります。県のまち並み保存地区に指定されていることを始め、日本でも一番最初に指定されました国立公園の地域であるということが、倉敷市だけでなく岡山県全体の非常に大きな素晴らしい点だとまず思っております。今から約20年前には瀬戸大橋がこの地区に架かりまして、大きな変化を遂げたわけですが、それも含めまして今の下津井の地域は、倉敷市の海側の非常に魅力のある地域だと私自身も思っておりますし、観光客の皆さんも鷺羽山のレストハウス展望台の所から瀬戸大橋や海の方を見られる観光客の方が、今景気状況で少し減っている所もありますが、未だに非常に多くの方がいらっやっやいて市の魅力の非常に大きな所だと思っております。

最近のことで私自身も岡山県としても非常に活気があると思われたのが、国民文化祭の開会式の時に、また、市のいろいろな大きな行事で、下津井中学校の皆さんが下津井の踊りを披露して下さいます。毎年拝見しておりますのは、水球の全国大会の開会式ですとか、私が非常に嬉しいと思いましたのは、国民文化祭の開会式が岡山の桃太郎アリーナであった時に皇太子殿下が来られたんです。開会式にあたりましていろんな各地の出し物がありました。その中で明らかに下津井中学校の踊りが私は一番良かったように思いましたし、皇太子殿下も非常に元気のいいものだったとおっしゃっていたと後から聞きまして、本当に倉敷市代表で出てもらって良かったと思ったのが最近非常に印象に残ったことでございます。

先ほども申し上げましたようにこの地区には、鷺羽山「風の道」の下電さんの駅の所もありますし、漁業の面でも下津井のタコを始めとして多くの産物がございます。国立公園の鷺羽山の地域につきましては、今鷺羽山の駐車場の入り口の所から順々に整備をしまして、だんだん駐車場から上の展望台の方に登って行って今環境省を始め国と色々な折衝をしている所でございますが、ぜひ今の鷺羽山を今以上に倉敷市の観光の発信の拠点にしたいと思っております。「鷺羽山の景観を考える会」の皆様を始め、地域の皆さんがずっと協力をして下さって、ビジターセンターについても県の方から倉敷市が引き受けるにあたりまして、地域の皆様に協力をいただいて今に至っておりますので、地域の魅力を発信していきたいと思っております。ただ一つの懸念点は、環境省が木を切ることについて、政権が変わったからか分からないんですが、最近厳しいことを言われ出しまして、将来の計画じゃなくて、計画を出すように、昔からの保安林の計画を県に出してからじゃないと先に進めたいいけないようなことを言われ出しました。なぜかというのがよく分からないので、もっとよく調べないといけないんですが、非常に前よりは厳しいことを言われているのが一つ気になっています。

「風の道」については、ここ数年間かけまして整備を順次進めている所でございます、平成22年度から23年度にかけて、ちょうど下電さんの会社ができられまして100周

年ということで、下電の駅舎のことについて何かもっと市と協力してできないかと言っていていただいております。市の方も駅舎の部分の整備を何とか少しでもできないかという思いで、今年8月が100周年だと伺っておりますので、そこからあまり遅れない位の時期にその駅舎の所の、今日マスコミの皆さんもいらっしゃっているので具体的な時期についてはまだ決まてないのですが、何か100周年の記念を行事の一環にできるようになればいいと思っているのも事実でございます。風の道から繋がって児島の駅の観光案内所でも最近歩く方、自転車でサイクリングという方が訪ねられることが非常に多いと伺っておりますので、その部分も風の道から駅舎の所までかけてもっとうまく整備ができればいいなと思っております。

防災、防災浸水対策の所でございますが、平成16年の台風災害で当地区、児島地区全域も非常に大きな被害を受けられたわけでございます。県の方になるべく早く整備をということで、下津井の港の部分や大島の地域等沿岸部について、とにかく県内の被害を受けた中でもなるべく早めにやっていただきたいということで、かなり前向きに行って下さっていると思っております。海の方と内水面の所と分担が分かれていまして、海の方は県の方で内側の方は市の方の担当に大体なるんですけど、まず海の方をやっていただいて中の方がわれわれの担当ということで、今どうすれば内水が溢れてしまわないかという解析をしている状況でございます。当地区は自主防災組織についても立ち上げをしていただきまして、地域の中での防災活動をしっかりやっていただいていることに大変感謝を申し上げたいと思っております。

私がいつも東京等に行きまして倉敷の自慢をする時に言いますが、下津井のタコのことでございます。全国でも本当に珍しく、タコ自体が美味しいのはもちろんのことですが、冬は干したタコの味ももちろんのことその風景をぜひ観光の一環にもっと見に来てもらいたいと思っております。そのためにも今児島の商工会議所でもB級グルメということで、下津井にもともとあります「たこ飯」に加えて「たこ塩焼そば」を一緒に売り出して下さっている所がまた児島地区の食べ物美味しいという所に繋がっていけばいいと思っております。

倉敷の児島地域全体のことでここ最近いくつか大きく変わることがありますので、お話をさせていただきたいと思えます。まず、一昨年の4月に児島の駅前広場が完成いたしましたことは皆さんもご存知でいらっしゃると思うんですけども、実は児島の駅前岡山県内で2番目に大きな駅前広場で、岡山駅の周りが1番でございます。これを芝生の広場を広げまして、児島公園までの所と今整備をしておりますが、架橋記念館の児島文化センターの所までの地域を児島駅周辺の中心市街地として活性化を図っていきたいというのが今の大きな倉敷市の児島地区に対する計画になります。駅から駅前の広場、そして旧マウントフット大学とファッションセンターと向かい合っているんですけど、旧マウントフット大学の所を今児島のジーンズの町ということを盛んにPRしておりますので、そういう部分を含めた産業振興センターを今、中をリニューアルしまして、そこからジーンズや繊維産業の卵の人たちが会社を興せる、立ち上がりのできる施設のようなものを造っております。それから地元の観光・産業をPRできる場所をそこに作って、向かいにはファッションセンターがありまして、その奥に児島公園があって、そこから今の架橋記念館の所の横に市が建設をしております、今年の10月にオープンする予定になっておりますが、今児島の市民交流センターの建設を進めている所であります。児島の市民交流センターは、児島

の公民館と図書館等を始めとして、これまでの市の施設の中で児島の施設が非常に年数が経って来ておりましたのを一つ一つ建替えるのではなくて集約しまして、より使い勝手がいいようにと今建替えをしております。地元からずっとご要望いただいております地域の交通ということで、目の前の公園の所の中銀さんの間の道を改修しましてそこら辺一体で使えるようにやはり芝生の部分をかなり増やしまして「晴れの国」ということで、太陽光発電を入れて「晴れの国」、「環境の町」というのをPRしていきたいと思っております。

市民交流センターの中で建設をするにあたりましては、一つ私が非常に他の地域と違って力を入れた所がありまして、それは図書館の部分でございます。児島の図書館はなぜか他の図書館に比べまして、これまで他よりも明らかに数万冊以上本の数が少ない状況になっておりましたので、他の図書館と比べてもそれ以上の数をちゃんと入れて図書場所に子どもさんから年配の皆さんまで非常に使っていただきやすい明るい図書館にしたいと思って今建設を進めている所でございます。図書館、公民館の部分でそこから野崎さんの所の通り、そして駅の所からずっと児島のまちの中を歩いてもらってジーンズストリートの辺りまで児島の中心市街地の所が活性化していけるようなという思いで今、市の事業を進めている所であります。

最後に、児島の市民病院のことでございます。児島の市民病院は今おかげ様で岡山大学医学部さんの全面的なバックアップを何とか取り戻しまして、先生をちゃんと安定して派遣していただけるようになりました。一回岡大との関係が切れてしまって、先生方が辞められたりしたんですが、今は関係が回復して来ておまして、ちゃんと定期的に良い先生を、特に今の江田院長先生も非常にいい先生でありまして、例えばインフルエンザ、肺炎、禁煙、肺がんとかの面に非常に長けた先生でございます。江田院長を中心とせず内科をしっかり再生して、外科の手術についても今少しずつ回復している状況になっております。市民病院についても地域の皆様が一緒にゴミを拾ったり、木を切って下さったり職員の皆さんも非常に心強く思っておりますので、病気にはかからない方がもちろんいいわけでございますが、もしかかりましたら、市民病院の方もぜひお願いをしたいということを最後に申し上げまして、最初の私からのお話とさせていただきたいと思っております。

《参加者Aさん》

児島消防署の下に琴浦、郷内、臨港、下津井と4つの出張所があります。高規格救急車は下津井に配置されてないです。あとの4箇所は全部設置されています。当然救急の救命士もおられると思うんです。なぜ下津井はそういうのが遅れているのか。特に高齢化が進んでいる下津井地区、早急に高規格救急車を配置していただきたい。

もう一点は、下津井は昔から非常に漁業が盛んで魚介類も有名なタコとか多いんですが、このブランド化。特に下津井産というブランド化を推進して行って欲しいんです。スーパーを見ると「これが下津井産の魚かな」という魚が下津井産と出ています。そうではなしにイカナゴ、タコ、小魚等下津井産ならではの美味しい魚がたくさんあります。これをぜひ下津井産という表示をブランド化していただいて、他地区に大きく広めていただければ事業者も喜ぶし、美味しいものがきちんと供給できると思います。

《市長》

高規格救急車の配置につきましては、計画的に更新することになっております。今の下

津井に配備しているのが古いからといって救急のサービスが悪いということにはならないように消防局の方では、ちゃんとサービスをしていると思っております。順番に更新をしていますので、なるべく早く更新したいと思いますが、今詳しいことが言えないのでちゃんと調べてお返事したいと思います。まず1つ目でございます。

2つ目の漁業のことですが、まだ私も漁業の面について、東京の方でPRをする中でできてないことがあるんです。東京の銀座でPRをした時はちょうど定期的に夏の桃の時期で、兎島からはジーンズのPRで行ったんですけど、デパートの一階の玄関口ということでお魚を持っていくのがいいのかという所がデパートとの打ち合わせがなかなか進まなかったこともありまして、必ずしもそこでやるということだけじゃないと思うんですけど、言われるように下津井の魚のブランド力を高めると。例えば一つには市長や市の職員とかが大阪等の大きな魚市場に行って売込みをするのも一つ大事だと思っています。それと言われましたように「下津井」というシールが貼ってあったら高くなるような、もちろんそのためには品質が非常に高いという、何かの基準みたいなものを取っていただいて貼り付けたりできるといいと思っています。桃の密度、糖度と一緒になんですけど、そういうものの開発ができればいいなという思いでおります。まだその部分については今直売所とかそういう所までしか進んでいないのが現状なので、余り進んでいないのも事実でございますので、もっと頑張りたいと思います。

#### 《参加者Bさん》

私は、むかし下津井回船問屋でボランティアガイドをしております。一時、新聞やニュースでビジターセンター、下津井回船問屋、水島サロンがなくなるんじゃないかと噂が立ちました。その時に美術館みたいないいものが集まっている下津井回船問屋の資料館がなくなったら、下津井はいよいよ火が消えたようになるんじゃないかと心配される方が「存続するんですか、どうなるんですか」と次々と問い合わせがありました。私も今〇歳になりますけど孤軍奮闘で、観光の方が来たら下津井にまた来ようかという印象を受けられたらいいと思って頑張っています。年間5、6万人の観光客が来られています。下津井回船問屋がもしなくなったらそういう人が来なくなりますので、今年は特に観光バスが非常に増えて来ております。私も年ですから、後誰か協力してくれる人が居れば心強いと思って色々と考えておりますけど、皆さんの中に「協力してやろう」という方がおられましたらお願いしたい。

むかし下津井回船問屋の存続がどういう方向になっているかまだ結果の話は聞いていませんが、その点が心配になっております。それからお客さんが来た時に駐車場がなく苦労しております。何か良い方法はないかと思って質問させていただきます。

#### 《市長》

今Bさんが言われました、今から一年数ヶ月前、県との間で鷺羽山のビジターセンター、下津井の回船問屋、水島の方では水島サロン、あと美しい森もあります。それらを含めまして、県の方がお金がないのでどこか市の方で引き受けてくれなかったら止めると言って来られたので、非常に市としても困りました。結論といたしまして、さっきビジターセンターのことだけ申しましたが、下津井回船問屋につきましても下津井の非常に大きな観光の拠点になっておりますし、最近の話で今少し観光客が増えてきていると言って下さいま

したので大変心強い思いです。下津井回船問屋も市の方が県から譲り受けまして、こちらの方でやっていくことになっておりますので、廃止とかにはなりませんのでご安心いただきたいんです。ただご案内やいろいろPRしていただける方というのは確かにこれからまだまだ案内をしていかないといけないと思うので、ぜひお手伝いをいただける方がいらっしやったらお願いしたいと思っております。

駐車場については、色々お話もいただいたり、一方では駐車場もあるんじゃないかというお話もいただいております、今現状でどうするかは決まっておられません。ただ観光客の方の推移等を見ながら検討する必要があるものという考えでございます。下津井回船問屋は本当に大きなポイントでございます。最初の時にはあまり言いませんでした失礼いたしました。ひとまずそんな考えを持っております。

#### 《参加者Cさん》

私はこの近くの鷺羽ハイランドホテルの旅館の方に勤務しております。観光の方の事情もございまして、ぜひ直接お尋ねをしたいことがございまして参加させて頂きました。

先ほどBさんが話の口火をきって下さったものですから、ちょうどお尋ねしたいと思っていた話題でもあったのですぐ次を引き取らせていただいたような次第です。先日の新聞で予算の一部が載っておりましたので、拝読させていただきました。ただ一つ直近で、先ほどのBさんの話にも係わってくるんですけど、非常にショックな資料を拝見する機会がございました。じゃらんリサーチセンターの研究機関の方で2009年4月から2010年3月にかけて、観光旅行客の調査をした結果で47都道府県別「来訪者満足度ランキング」が発表になっていました。岡山県は47都道府県中46位評価になっておりました。ブービーでございます。最下位は埼玉県。これと並行しまして2009年に調査された同じ研究機関の調査データの中に「地元愛着度ランキング」が同じように公表されておりました。「自分が住んでいる地域に愛着を感じられますか。住んでいるまちを好きですか。自分が住んでいるまちを地域外の方々に勧めますか」という趣旨の調査です。このランキングを見ますと岡山県は残念ながら44位で、私自身観光業をやっている関係もありますが、ショックを受けました。さっきBさんがおっしゃったように一つには、「地元を好き、地元のことを愛している、地域に愛着がある」という思いの強い地域は、満足度が高いんだと。なるほど1、2、3位というのは沖縄、北海道、京都です。もちろん施設だけの問題ではないと思います。下津井に置き換えて考えた時に、いろいろな観光施設、或いは市内の整備等いろんな問題もあると思うんですが、Bさんが言われたとおり、下津井地区でボランティア観光ガイドの仕事に携わっていただいているのはBさんただ一人です。ところが今年の市のデータを調べましたら、児島地区にも下津井地区にも「ボランティア観光ガイド」という正規の登録はありません。市の統計はゼロ人です。これでは例えば下津井回船問屋、存続していただきまして本当に大変な財政の中でご苦労だと思ってしまうんですけど、お客様がお見えいただいても、観光バスが到着して何十人の観光客がご案内される。でも常時はBさん一人なんです。今「地域を活かすまちづくり」というのをテーマを最初に掲げられておりますが、まち中を歩いていくという、観光客の来訪者の満足度調査の中でもまち歩きというのが岡山県は非常に高いんです。都市型の観光になっていると思うんですが。下津井の伝統、自然景観、特産物等たくさん本当に五感に感じられるような風景を本当に楽しんでいただこうと思えば、やっぱりその土地の歴史、成り立ちを語れる方

に居ていただいて、その人がやっぱり付き添って人の声でご案内いただける。これがおもてなしだと思うんです。これはは愛着度と係わり合いがあるんじゃないかという気が強くいたしております。もちろんボランティアですから、ある意味では「奉仕の精神」が必要なのは良く分かるんですが、それだけではなかなか維持していくことが難しい。特に下津井では高齢化が進んでいます。若い方はなかなか出てきていただけない。先日、40前の方がBさんの所へお弟子入りをされたお話を伺って嬉しかったんですが、それだけではなかなか難しいだろうと。ぜひこの辺りについてもう一つご助力をいただけたらありがたいと思います。

#### 《市長》

今データの分で47分の46、47分の44と非常に低いという分析ももちろん必要だと思いましたが、今ボランティア観光ガイドの方の話を聞きまして私が思いましたのは、例えば倉敷の美観地区の方で、もちろん昔から無料ガイドの方がいらっしゃるのですが、実際に地域の皆さんたちが自分が住んでいるまちのことをもう一回よく勉強しておもてなしをしていける、もしくは解説等をできるような仕組みを作ったのは、実はつい先日なんです。新聞に載っていたのを見ていないんですが、倉敷の美観地区の方でつい先日「おもてなしマイスター制度」ができました。これは昨年の夏から秋にかけて地域に住まわれている方が、もう一回観光のおもてなしや外から来られた方にPRをするやり方等を先生たちに何人か来ていただいて何回かボランティアガイドの講座を受けていただいて終了して、必ず仕事としてやるのではなくてPRやおもてなしをして下さる制度を倉敷地区でも初めて作ったんです。それを終了された方は、今Cさんがされていますけどバッジみたいなものを付けまして、その地域のおもてなしマイスターだという制度です。そういうこと等を始めとして、実際に住まれている方と観光客の方に急にどう対応するか分からないという方も結構いらっしゃると思いますので、何かさっきのおもてなしマイスター制度のように、市としても倉敷地区だけでなくやっていたらいいなと今思いました。貴重なご示唆をありがとうございます。

#### 《参加者Dさん》

市民病院のことで、産科の再開はいつ頃になりそうか。それから建て替えの時期、建て替え代替え地、以上3点です。

#### 《市長》

市民病院の産科、建て替え、場所のことでございますが、先ほど内科については非常に安定的に先生を供給していただけるようになったとご報告をしたんですが、産科についてはまだそこまで至っていないというのが現状でございます。もちろん引き続き先生の誘致は岡大だけでなく他地区の病院からも誘致しているんですが、産科についてはまだ見通しがついてないのが現状です。ただもちろん引き続き、誘致をしまして児島でお産をしていただけるようにと思っておりますが、現状でまだ目途がたっているわけではありません。

2つ目と3つ目の建て替えのことですが、まだ建て替えの検討をするまでには至っておりません。なぜならば大赤字でございまして、江田院長とお話していますのは、まず赤字から黒字になっていただくと。そんなに遠い時期じゃないと私は思っております。ここ約

1年の間に黒字に転換するんじゃないかと思うんです。そしたら建て替えか大規模修繕になるのかどちらか分かりませんが、見えてくると思っております。建て替えについてはまだそこまでは至ってないですが、思いは今言ったような内容です。

ただ、児島の市民病院には私が市長に就任させていただいてから投資を随分しております。例えば最新のMRIやCTの機械を買ったり、江田院長が来られていろいろ見られて、建物じゃなくて病院自体の仕組みが非常に古かったらしく、カルテについても全部手書きの状態だったのが、岡山辺りの病院に行ったら普通はカルテシステムがありまして、パソコンで打ち込んだら次の患者さんが来た時にすぐ、棚から探して出すんじゃなくて、前のデータがパソコンで出たり、レントゲンの写真も入ってくるということが江田院長の一番最初の要望でした。それが何と1億円近くしたんです。非常に大きな投資だったんですが、江田先生が院長に就任されて「とにかくまずこれを改革をしたい、これがなかったら治療ができない」と言われたので、確か補正予算で思い切って付けたと思うんですが、まずはそれをしました。今度はよく見たら機材が古いというので次はCTやMRIとか、それぞれ数千万円、MRIは1億近くすると思います。ただこれはもし建て替えても次の病院に持って行けますので、必要な投資はなるべく前倒してやって、ただ建て替え全体になると経営状況も必ず見ないといけないので、まだそこまで行ってはいないというのが今の全般的な状況です。必ず良くなると私は思っています。

#### 《参加者Eさん》

さっきの市民病院の産科のことはまだ検討中ということで、できたら早めに再開してほしいです。私は主任児童委員をしていて一応子どもの問題の方をしています。地域力を活かすためにはやっぱり人づくりが大切だと思います。そういう点からお話をさせていただけたらと思います。

まずはやっぱり産まれないとどうしようもないので。今児島の地区でお産ができず多分1件もなかったと思うので。以前そういうお話を市長さんをお願いした時もあるって「市民病院の方に来て下さい」とお話をした時に「考えています」という話で、ここまで復帰したのは市長さんのお力ですごくありがたいと思っております。

先ほどの話の中で下中の生徒が「とこはい下津井節」を岡山国文祭のオープニングで踊って素晴らしかったという話を聞いて、たくさんの人から僕も聞かせてもらって、一応子どもに係わっているものですから、子どもが褒めてもらえることは凄くありがたい嬉しいと思っています。先ほど皇太子さんの方からそういうお言葉があったということで、それも校長先生に話して先生から生徒に伝えてもらいたいと思っています。その下津井中学校なんですけど、下津井地区は「少子高齢化の先進地域」で、本当に子どもの数が少なくて、高齢者の数が凄く増えてきています。昨年度下津井の幼稚園は廃園になりましたし、2校ある小学校は全て1クラスずつになって、現在2クラスある下津井中学校は、来年度から1クラスになると。それがこれからずっと続くだろうと言われてます。十分な教育をしていただければ少なくとも別にも問題は無いんですが、ただ、生徒数が少なくなると教員の配置の数がどうしても基準でいけば少なくなります。少ないからいい加減な教育をするわけにもいかないと思うので、県の方もお金がないからそんなに加配をくれないと思うんですが、市の方の予算で少し加配をいただいて、今凄く下津井の生徒も先生方も頑張っ

ていますので、十分な教育を子どもたちにできる体制を作っていただけたらありがたいと思っていますのでお願いします。

#### 《市長》

産科の方は引き続きもちろん頑張っていこうと思っております。ただ一点だけ言い訳をするつもりは全くないんですけども、多くは下津井、児島地域でお産ができない場合に、日頃かかっていらっしゃる所で急に産気付かれたら、倉敷地区の方が水島に行かれる方が多いと思うんですが、岡大、中央病院の先生にその話をすると、先生たちが「心配をしないように」「倉敷市内は非常に市内の距離が近い」と。それで「幸い真ん中辺りに大きな病院がいくつかあります」と言われるんです。本当に産気付いて下津井にいらっしゃる時に中央病院に救急車で行く間に何かが起こって非常事態になるということは、他の地域で経験をされているのと比べると児島は、玉島でも同じ状況になりつつあるんですが、医学的観点からは平均的か大丈夫な方に入るので、そんなには心配しないようにと、地域の人たちに言ってもらいたいと言われるんです。もちろんお願いはしていますが、先生たちから言うと医学的には地域としてはそんなに心配はしていないといつも言われるので、もともと産科がありましたので、本当に引き続き再開できるように頑張っていきたいと思っています。先生たちの募集の要項とか一生懸命全国に向けて出しておりますので、必ず岡大から来られるわけじゃないので、引き続き頑張りたいと思っておりますが、そういう事実も一応、市内全体としては安心をある程度できるということがありますので、1点申しておきたいと思えます。

下津井のクラスの数がだんだん減っているというのは確かにその通りだと思いますし、他の地域でもやはり減っている所があります。今のお話はもちろん教育委員会の方に伝えまして、とにかく生徒がどの地域にいても学校クラスを配置しているわけですから、ちゃんとした教育を受けられるように教育委員会だけでなく市長の方からもしっかり言っていきたいと思っております。ただ地域の皆さんから学校のご協力も大変いただいていると思えますが、その部分も引き続きサポートをお願いしたいと思っております。

#### 《参加者Fさん》

少しお話しましたように「風の道」、私は下津井駅は下電さんのスタート地点という考えであります。最終地点じゃないと。今倉敷市がその一部を借地しておられます。工事云々も今年度にかかると聞いていたんですが、未だかかってない状況でございます。確か8月15日に下電さんが100周年をしようとお聞きしています。実は商工会議所・児島ライオンズクラブ、市長のお話の中で、要望書が届いたかどうか。実は要望書を作成する会が行動している途中でございます。児島ライオンズさんが55周年、それから100周年下津井電鉄さんと何かの形をやっていこうと動いています。われわれ住民としても荒れ放題の下津井電鉄跡をどうにかしていただきたい。倉敷市の借地になっている以上は整備も速やかにする必要はあるんじゃないかと。倉敷市にも責任があるんじゃないかと考えております。周りに鉄条網をしており危険です。私も実は怪我をしたことがあります。そういう所も企業と倉敷市、われわれ住民と力を合わせて良いまちづくり、人とのふれあいをしていきたいと。われわれ住民としても何か行動を起こさなければならないんじゃないかと、ちょっと動いて行こうかと感じています。下津井電鉄さんにもお願いしていただいてその

後にポンプ場を、お話がありましたように早く大きな台風が来ないうちに。大変な被害を受けております。周辺の石ころやガレキを速やかに整備していただけるようお願いいたします。早い工事を期待しております。児島のまち、下津井のまちをよく考えていただいたり、実際にしていただいている人もおります。市長もどうか早め決断を。今日は市議員の人も来られていらっしゃるんですけど、市議会等におきましても活発にお願いします。

《市長》

要望書を何日か前に出していただきましてコピーだけとりあえず拝見した所です。下津井駅の跡については、そのお話もあったので今担当部局の方に聞いてみて一つの理由かとも思うんですが、もっとそれを越えて何とか早くできないかとは思いますが、電車の線路みたいな所がありまして、そこが枕木をしていた線路になります。担当部局が言いますのに、四方手を尽くして探していますが、枕木がなかなか見つからないと聞いたんです。それを探していたら随分先になって時期より逸してしまったらいけないので、それを聞いて私は何か他の方向でもできないかと思いました。8月15日に式典があるんですか？

《参加者Fさん》

まだはっきりとは言えないというのか・・・

《市長》

今度下電さんに市の方から確認してみます。何か式典があるんだったら、その時までにはできる範囲のことも進むようにと思っておりますので、あの場所が一応市の構想では線路で枕木みたいなのをひいて芝生の部分を随分増やして、ただ芝生は生えるのにある程度時間がかかるので、いっぺんに緑とは難しいかも知れないですけど、下津井の中心的なスタートの、今言っていた場所になるようにまずできる所からでも進めるようにしたいと思います。

《参加者Gさん》

観光についてお願いさせていただこうと思ったんですけど、私が思っていた事業がどんどん進んでいる状況でして。市長さんが就任以来、東京や市内のイベント等いろんな所でやられて心強い市長さんだと思っております。

観光につきましては3月12日に九州新幹線（が開業）、倉敷に来られる方もたくさん増えるんじゃないかと思えます。その中で倉敷や児島駅に来られる方もおられるわけですけど、マイカーや観光バスで来られた方は、観光の目的の場所まで移動できますよね。というのは、私はレンタサイクルのことでお願いしようと思っていたので、それがどんどん私がお願いしなくてもお礼を今日言わせていただくようになりました。マイカー、バスの方は問題ないですけど、駅に降りられた方はタクシー、レンタカー、路線バスとか。最近レンタサイクルが非常にどこの市に行っても多いんです。資料を市長さんにお渡しします。後から参考にさせていただきたいと思えます。児島駅は6台の自転車があります。特に近年、旅行の多様化、昔のようにどんちゃん騒ぎの宴会じゃなくて若者が目的を持った旅行をされます。自転車が本当に小回りがききます。また下津井の地を訪れる場合に路線バスが一時間に一本です。下津井のまちをバスに乗ってずっと通過するだけでは何にもなりません

し、一番若者がいいのは自転車で行って、くまなく歩けるのがいいんじゃないかと思いません。倉敷のコンベンションの場合は、倉敷は美観地区までせいぜい500、600メートルですから、レンタサイクルの手続きをしている間に美観地区の美術館やアイビスクエアの方に行けます。しかし児島の風の道を訪れる場合は児島駅から6.3キロありますから歩いたら2時間、往復すれば4時間かかるそうです。これでは下津井の回船問屋にもどこにも寄れません。そういう状況ですから、自転車をぜひお願いしたいと思っておりまして11月議会に議員さんがされたことを市議会だよりで見せて頂きました。市長さんは「検討します」とのことでしたが、早速来年度に434万円を予算化していただいて私がお礼を申させていただくことになりました。

鷺羽山は昭和9年の国立公園第1号です。今盛んに言われております「パワースポット」ですが、鷺羽山は当時のパワースポットだったと思うんです。市長さんは行かれたことがあるか分かりませんが、鷺羽山の頂上の秀鐘峰という所から見ますと塩飽諸島、四国山脈、また船の動きがありますから大パノラマです。本当に国立公園の中心だと実感される景色です。道の駅の旧下津井電鉄の鷺羽山駅に新しい公衆便所を昨年か一昨年にしていただいて、展望台からも瀬戸大橋が見えると。この瀬戸大橋が本当に世界一です。下津井には貴重な財産があります。橋の真下まで行けます。橋というのは遠くで見るのではなくて下へ行くと偉大さがパノラマで体験できます。ですので、434万円の予算化をしていただきまして、今現在自転車は6台です。タクシーは30台あります。今お渡しした資料も参考にさせていただいて。

もう1点、予算化して執行時期までかなりかかるんですが、ライオンとかゾウを飼うのなら建物が要りますけど、自転車ですからどんな方法でも格納できます。城山からの眺めも良いです。城山の桜の見物に間に合うよう、ゴールデンウィークより前に自転車を整備していただけたらと思います。

《市長》

Gさんに言って頂きましたレンタサイクルの新聞記事は今日出ておりました。

《参加者Gさん》

予算化は昨日でしたか。

《市長》

発表しまして、市議会だよりを細かく読んでいただきまして大変ありがとうございます。作っております課も大変喜ぶと思います。レンタサイクルの台数も少なかったということで、70台が買える金額に、うまく活用していけるようにという思いで予算を付けております。大変貴重なお話ありがとうございました。

《参加者Hさん》

倉敷市の観光について、倉敷駅は観光客の皆さんが旅を楽しんでもらうために新しい周遊コースを作ったらどうかと考えております。コースは倉敷、児島、直島を巡ります。倉敷は大原美術館・美観地区、児島は鷺羽山・瀬戸大橋その他、直島は現代美術館ということで、瀬戸の文化と景観を充分観光客の皆さんは楽しんでもらえると思います。これにつ

いて市長さんはどう最近の倉敷の観光についてお考えですか。

《市長》

直島の昨年の瀬戸内国際芸術祭、非常に評判が良かったという事でまた何年かしたら2回目をやられる話もあると伺っております。市が直接観光コースを作るということではなくて、観光協会、観光コンベンションビューロー等が観光事業者の方とタイアップする中で、「倉敷、児島、直島だったらこういう所が見れます」と売り込みをしないといけないんじゃないかと今の話を聞いて思いました。例えば直島であれば必ず3年後にしなければいけないものではないと思いますが、今言っていたような観光への売り込みの仕方をもっと考えなければいけないと今思いました。

《参加者Hさん》

やはりインフラ整備が非常に大事だと思います。特に児島観光港の活用は非常に大事だと思います。市の方もだいぶ経費をあそこへかけたんじゃないかと思うんですが、現在は非常に寂しい思いです。国際芸術祭に合わせて、2年ぐらいの期間で計画されたらどうかと思います。昨年の香川県の例で、あそこを実際チャーター便が走っております。これは行政の力で扱っているんじゃないかと思えますし、こういうことを繋いでいけば船も走るんじゃないかという気もします。ただ去年私が航路について研究したんですが、ネックは直島の漁業権の問題です。これを何とか行政で改善すれば明るい未来が開けると思えます。もう一つ、児島の新しいまちづくりはどうお考えいただいているのですか。

《市長》

新しいまちづくりのどのような面でしょうか。

《参加者Hさん》

ジーンズ街や新しい資料館ができていますが、私としては魅力のあるまちとして、例えば直島との航路ができれば外国人の方や若者が児島へいっぱい来てくれると思うんです。ただ通過するだけでは困りますし、また児島に戻ってもらわないといけないと考えている次第です。

もう一つ、瀬戸大橋と鷺羽山を世界遺産に申請準備したらどうかと思っております。これは実際夢の話ではないです。今広島県の鞆はユネスコから世界遺産にしたらどうかと話が来ています。鷺羽山も鞆の浦も昭和9年に国立公園になった兄弟ですから、今世界遺産の申請も同じものであれば県外で申請してもよいとなっています。広島県、香川県、岡山県と3県が手を組んで申請したらいいと思います。今の日本はちょっと寂しい思いがしておりますので、瀬戸大橋は20世紀の遺産ですからもう資格は充分ありますので、何とか考えていただければ、市も地元もいいんじゃないかと思っております。

《市長》

Hさんが最後に言われました世界遺産につきましては、以前お話を頂きましていろいろ調べているんですけど、最近は単独での指定は非常に厳しくなっているとされます。今

言われました広島と岡山と香川と、愛媛もかも知れませんが、瀬戸内海の所の海の多島美と瀬戸大橋、しまなみ街道とかが何らかの形でうまく組んで出せばいけるのかと個人的には前のお話をいただいてから思っております。今日言われて再度そう思いました。一方で世界遺産になると非常に規制が厳しくなることがあるのが、議論も高めていく上での一つの課題だと思っているんですが、枠組みとしては鷺羽山だけでというのは難しそうだと感じております。

#### 《参加者Hさん》

瀬戸大橋は文化遺産、鷺羽山は自然遺産、自然遺産と文化遺産が二つあるのは日本では例がないんです。鷺羽山はもう世界遺産になる資格があるんです。最近ではメルボルンのオペラハウスができてから37年目に遺産になっております。それからフランスのル・コルビュジエという人が設計された上野の国立西洋美術館（独立行政法人国立美術館）はフランス政府が去年そういう話を出しています。瀬戸大橋は日本の20世紀の技術の粋を集めた橋ですから、ぜひ研究課題にさせていただいて。

#### 《参加者Iさん》

「向こう三軒両隣」という言葉がありますが、良き意味での共助、助けのあるまち下津井だと思っております。ところで防災について、火災等が発生した時には以前は緊急情報提供システムでサイレンが鳴り、火災の種類、火災現場の場所等が消防局の遠隔操作で行われてきたと思います。それで住民は情報を知り、次の体制を取っていましたが、現在は消防隊員の招集は携帯電話で行われていることは承知していますが、われわれ住民は消防車や警察署のパトカーのサイレン等の音が聞こえるまで近所で何が起きているか火災が発生していても分からないことが起きています。またそういう恐れがあります。聞くところ、サイレンの音がうるさいという苦情が消防署の方にありまして、それから放送しなくなったと聞いています。もしそれが事実ならあまりにも情けないと思っております。それくらいのはわれわれ住民は受け入れるべき範囲内だと思います。そうでない理由で放送しなくなったのであれば、なぜかお聞かせいただきたいと思っております。以前のように放送して下されば初期に避難、初期消火の部分も少しは住民の中ででき、他の面でも地域力のアップに繋がっていくと思っておりますが、よろしく願います。

#### 《市長》

防災・火災の面のご指摘だったと思います。今お話をいただきましたように、市の消防の出張所がありますし、地域には大変心強い下津井の消防団の分団がおられます。この2つを核にして下津井の防災・火災の所は守られていると思っております。消防団の方の招集がメールになったことを始め、今消防システムが以前の全部有線で行くのから仕組みが今デジタル化に全部なって来ていることが、一つには課題だと思っております。ただ一方で下津井地区の中でも防災用の避難勧告を出せる拠点へのスピーカー設置は市の方で以前と比べて多く設置をしております。災害が起きた時には以前よりも声が聞こえやすいように設置いたしました。今毎月1日に鳥の音が聞こえてくるのは、市の全域の防災用で新しく整備をした分でございます。一方でその鳥の音がうるさいという苦情も確かに来るんで

すが、今Iさん言われたように鳥の声では何のことか分からないから、1日には「これは防災無線です」と声でちゃんと喋ってもらわないといけないという声もありまして、今検討をしています。

もう一つ、地域の消防団の各機庫からどれだけ大きな音を出すシステムを置くかという事が今まさに言われたように、地域の方の理解が下津井地区だけでなく全地域にいろんな考えの方がいらっしゃるのが現状でございます。今の所市全体としては小学校の屋上等に設置して鳥の声が「びよびよ」と月一回流れるのを使っていこうと思うんですが、もっと細かくやる必要があるというご指摘もいただいていると思っております。非常に周りの皆さんのご理解も必要になるので難しいのですが、いざ災害が起きたら命に係わる場所なので、音がして大変な部分もありますが、ご理解をいただければと思っています。

《参加者Jさん》

今のお答えについて、実は消防団の放送が流れなくなったのは、最初は児島署なり倉敷署なり中央からあったんですが、無線がデジタル化されてできなくなりました。その時に団員はメールになりました。地域で放送しないと言われていました。というのが、消防団はメールが入ったら機庫に行って機庫の放送施設ですぐに「どこどこが火事だ」と本当はメールしないと駄目なんです。私も団員へ言ってそれなりの伝達はしているんですが、なにぶん「すぐ行け」というのが現状で、それは変えていこうと思っています。ですから消防団が機庫に行ったらすぐ、「どこどこが火事なので地域の人に知らせてよ」と。

《市長》

消防団の機庫のマイクですね。

《参加者Jさん》

そうです。市長さんが言われるのも2系統あるんです。消防署の系統と防災の緊急情報提供無線システムがあるので。系統が違うので一緒にしろと言われても難しい所があるのが現実です。

《市長》

Iさんが今言われた分への今できる回答は、以前は消防署から直に声を出す仕組みでした。しかし全体の消防署の仕組みを、岡山県下全体の交信が古くなって使えなくなって更新をしないといけなくなったので、今度は消防署へ来たら消防団の方に連絡がいて、消防団が消防署の機庫から自分が行ってマイクで言わないといけない仕組みになっております。今分団長も言って下さいましたが、もっと改良ができないかと私も思っています。いかんせん全体の仕組みと防災の仕組みの系統が分かれている状況になっておりますが、改善できる部分をもうちょっと検討できればと思いました。

《参加者Kさん》

自転車の関連ですが、2年間車から自転車に変えています。鷲羽山も王子が岳も全部上

がりました。児島の歩道は全部日本でワーストワンです。夜歩くと夜は事故だらけです。車はクッションがありますが、自転車はクッションがないので自転車1センチでも2センチでももろに当たるんです。とりあえず素晴らしい倉敷市の歩道を一回見てください。

もう1点、音楽を朝7時、お昼12時本庁も支所も全部流していますが、元気がなく「疲れた」という感じです。中山運動公園に12時に行った事がありますが素晴らしい。短いロシア民謡や素晴らしい行進曲とか、あれを倉敷にも流して音楽のある倉敷市にして欲しい。世界中で音楽が栄えている所はまちが栄えています。よろしくお願いします。

《市長》

歩道の整備も課題でございます。市内全域でだんだん自転車に乗られる方が多くなってもちろん車道もですが、歩道の整備をもっとしないといけないと思います。言われる事がだんだん多くなっているように思います。いっぺんに全部はもちろんできませんので、計画的にやっていければと今のお話を聞いてより思った所です。音楽については、よく検討させていただきます。元氣の出るようなものにできればとも思うんですが、基本的にはチャイムだった気もしますので、少し何か改良ができればと。また研究させていただきます。

《参加者Lさん》

「地域力を活かすまちづくり」には地域の伝統文化を知らなくてはと思います。今まで育ててきた地域文化が知らぬ間になくなっていっているんじゃないでしょうか。旅行会社の調査では岡山県民の地元愛着度全国ワースト3位に入りました。住民一人一人が地域の文化、伝統、歴史を学ぶ。誇りを持ち親しむことが重要ではないでしょうか。そのためには、まず今度できる交流センターにおいても、児島の郷土資料及び芸術に関する図書を整理し充実することが必要だと思います。現在、倉敷市内の図書館のうち、児島が一番芸術に関する図書は少ないように思われます。よろしくお願いします。

《市長》

図書の内容まではよく見てないんですが、今言っていたことは本当に大事だと思います。できる範囲で、開館にすぐ間に合うか分かりませんが、確かに倉敷の図書館にも、倉敷地区だけでなく水島の図書館にも全地区にありますけど、郷土の所があったと思いますので、各郷土の歴史のコーナーができればいいと私も思いましたので、よく検討させていただきます。

《参加者Lさん》

今はあれでは本当に少なく寂しすぎると思います。

《参加者Mさん》

今年トライアスロンを再開されるそうで、トライアスロンは過去10回を経て1、2年中断した。トライアスロンについて市は何をもってトライアスロンを再開するのか。過去10回程の推移経緯、それが及ぼす地域の経済効果はどのようなものだったのか、その推移を示していただく。それによって開示されていくと思うのですが、目的は何なのか。市民の健康増進、あるいは倉敷という知名度を全国に高めていくという理由もあるかも分かり

ません。しかし健康なんて年に1回運動したからといって。ですから市民の健康増進ではない。或いは岡山県以外、倉敷市以外の人々がほとんどです。その人たちの健康なのか。市としての知名度を高めるのなら、もっと何か方法を。知名度は確かに高まっているかも分かりませんが、これに伴ってメリット、デメリットがあるのを市は検討したことがあるのか。デメリットの方を申し上げれば「旅館にも泊まらない、宿もとらない。自動車の中でテントを張って寝る、食べ残しのゴミは置いて帰る」です。地域のためには活かすまちづくり、地域のまちおこしになってないんじゃないか。決して悪い事じゃなく、いいんですが、市がそういったイベントをするからには何か大きな目的・目標があって行うのが事実だと思います。そういうことを過去検討したのか理解できない。検討したのならどういうことを検討されたのか。そして「今回再開するのはこうだから再開するんだ」と地域に対して説明が欲しい。市内で3、4千人の人を動員してそれだけの効果があったのか。鷲羽山にも登らず下津井の町にも出て行かない。商店街にもモノを買いに行かない。何が目標で、何が目的で過去良いと思ったからやっているという理由をお願いします。

#### 《市長》

大変大切なトライアスロンのことを申し上げるのを最初に忘れておりました。今年の7月10日に2年前まで児島の商工会議所が皆さんの中心となってやって下さって参りましたトライアスロンを、市の事業全体のものとして今回地域の皆さんはもちろん多大なるご協力いただきまして実施できることになっているんですが、市としてこの事業を行うにあたって以前のものに比べて付け加えたい部分があります。まずこれまで10回あったんです。本当に児島のトライアスロンは全国の中でも非常に皆さんから人気があって風光明媚な所で素晴らしいと言われておりました。一回止めておりましたけど、倉敷市全体の魅力を高めたいというのがもちろんあります。2つ目に大きなのは市の全体の事業としてこれを取り上げたいということが市の大きな目的の一つでもあるんです。以前は児島の地域の皆さんたちの大きなご協力をいただいて、今回もご協力をいただくんですけど、市として市全体のトライアスロンになりますので、児島の商工会議所も倉敷も玉島も青年会議所も、他地区の商工会議所の皆さんもなぜこの児島のトライアスロンがこんなに成功しているのかを見てみたいと思われているんです。今は児島の地域ですけど、うまく行けば将来的に例えば水島や玉島の方まで距離が伸びたものがないかとも思っていますが、児島の地域で行うわけですが、倉敷市全体の玉島、水島の方はこんなにいい所にあまり来られない方も多いと思うんです。それを市の中で知ってもらうことも今回の市の事業としてやるという大きな意味があると思っております。

最後に言われました経済効果の面では以前よりももっと経済的に、なるべく泊まっていたことをPRしますが、それだけでなく以前の時にはなかったけれど、例えばB級グルメや屋台を出すとか、今のジーンズストリートもできてきています。ですので、トライアスロンの行事に加えて児島地域の観光だけじゃなくて、市内全体を含めて行ってもらえるようにしていきたいと思っております。その所を付け加えて市の事業になるということで今考えております。ただ今回1回目です。市の事業なので、どういう風にできるかまだ分かりませんが、いいものになっていくように頑張りたいと思っております。ご協力をよろしくお願いいたします。

《参加者Mさん》

鷺羽山の話ですが、ビジターセンターに行くまでの道路が夜は足元が非常に暗い部分があるんです。そういう所を歩いてみていただいて、危ないと思う所には照明を設置していただきたい。そのことを地元の小島、田ノ浦、下津井地区の人は望んでいます。

それで本当は下津井のまちへせっかく来た人やトライアスロンの方が一晩泊まって下津井のまちへ出ていただきたい、そういうPRを全国へしてもらえたらと思います。

《市長》

わかりました。

《参加者Nさん》

トライアスロンの件ですが、私の地域は登り道で、皆さん登りを直線に登れなくてジグザグで息を切らして登っていきます。それとスカイラインから下ってきたのと、ここからその壁くらいの道路があるんですけど、行きと帰りと一緒になっています。白線を引いていますけど。先頭と最後が約3時間私の町内ではかかります。舗装をしてない面が約1メートルの幅で約50メートルあります。そこがちょうどスカイラインから下ってきたカーブになる所です。私は今までにも交通整理をしましたけど、転倒したり、チェーンが外れたり、棄権したり何度も見ております。4、5年前に議員さんを通して危ないからと予算を市の方で取って下さっていたんですが、地主さんが反対で舗装を認めなかったんです。そこは道路の方面の所で、杭を打っているのも道路の管轄に入ります。この度トライアスロンを復興するにあたり危険ですから舗装していただきたいんです。それと私有地になりますけど替え地の道路を設けているんですが、一昨年はガードマンと警察官が来て下さったからスムーズに行きましたが、それまで私が10年間やりまして顔なじみの人は言うことを聞いて下さるんですが、「お前は何を偉そうに言うんなら」「通させろ」と言って聞かない人が多いんです。一昨年は商工会議所の黄色い腕章だけはめていたんですが、今後もするに至りましては、はっきりした交通整理の腕章を作っていたことが必要だと思います。それと警察署とガードマンが今後も協力していただければスムーズに行くと思います。よろしくお願いします。

《市長》

後で具体的な場所をもう一回教えていただけますでしょうか。

今日記者の方も来られていて、いらっしやらないものだと思って私が今思っている今の話全く関係ないことなんです、あえて皆さんどう思われるか伺ってみたいんです。今星野監督が水島出身の楽天の監督になられております。石井知事と倉敷市とでぜひキャンプをマスカット球場に秋のキャンプに来てもらいたいと思って誘致活動をしているんですが、その時にキャンプの期間や選手の皆さんの練習の都合等がどうなるか全く分からないし実現できるかも分からないんですが、よく考えたら楽天の名前は「楽天ゴールデンイーグルス」でイーグルスは鷺です。鷺羽山の鷺です。さっきパワースポットというお話もありましたので、選手の皆さんが練習オフの時に鷺羽山に来てもらったら、鷺が羽を広げる山ですから縁起もいいので誘致をしたいと思うんですが、皆さんどう思われますか。

《参加者〇〇さん》

この向こうの私の町内に老人ホームのしおかぜがあるんです。もう5年ほど前ですけど、しおかぜさんが移転して新たにできた時に、星野さんを公演に呼ぼうとして300万と言われたんです。それで水戸黄門の高橋元太郎さんに回船問屋に来ていただいて50万でした。星野さんもいいですけど、300万出す値打ちがあるかどうか。

《市長》

今回もし来てもらえるとしたら、監督としてキャンプの時です。星野さんだけ来られるのか、練習がない日に選手の皆さんが縁起がいい自分たちのチームの名前の所なので来てもらったら新聞でも取り上げてもらって全国的にも鷺羽山が有名になるかと。マスカット誘致のことを考えて思ったので、全くスケジュール等も、キャンプ自体が来るかどうか分かりませんが、もし実現したらぜひ歓迎していただければと思っております。実現できるかも分かりませんが、そういう考えを持ったことを申し上げます。

《参加者Pさん》

鷺羽山のシンボルである一本松がこの度半分位、枯れかけたんです。去年10月位に気が付いたんですけど、市の方へ「樹木匠さんと呼んで下さい」とお願いしていただいたら「今年の3月位まで肥料を施せば松くい虫が原因じゃないので大丈夫です」ということで、費用も市の方でやっていただいています。この一本松の写真を今、アマチュアカメラマンの方が10日間鷺羽山に朝10時前から夕方5時半位まで寒いのに三脚を据えて、天気の良い日と、船が何時間に1艘来るか分からないんですけど、タイミングを取って撮った傑作をぜひ市長にお渡しします。鷺羽山は4年から5年にかけて変わります。鷺羽山全体を4つのゾーンに分けて改修工事が始まります。ただ最初に市長が言われましたように環境省の認可が難しく、その許可が1年半もかかるそうですが、継続してやっていきますので、倉敷市の今後の協力をお願いいたします。

《市長》

一つだけ最後にご報告がありまして、私がしゃべっております間に消防署の職員さんが下津井の高規格救急車のことを調べてくれました。私も年度のことをすっかり忘れていたんですが、何とか3月末までに入りそうでございます。ちゃんとした救命救急士の人もすでに配置しておりますので、今の救急車でも大丈夫ですけど、今度の分だったらより安心していただけるかと思えます。それから当地区には非常に私も頼りにしております児島の遠藤支所長、児島の皆さんに大変ご協力いただいておりますボート場がありますので、今後ともぜひよろしく願いしまして、時間を大変過ぎまして恐縮でございますが、今日のふれあいトークとさせていただきます。どうもありがとうございました。